

どうする財源不足8億円の対応

千葉 幹雄 議員

問

政府は三位一体改革の中で、国庫補助金を向こう2年間で3兆円削減する。併せて2年後には、本町の交付税は今年度比16億8千万円少ない33億7千万円になると報道されたが、本町に与える分野別の補助金負担金の縮減と税源移譲の見通しを伺う。

① 予算編成に当たり、歳入で交付税が今年度に比べて2億3千万円減の47億円、また同時に、8億円の財源不足となっているが、その見通しと対策は。

② 歳出は、経常経費の削減は勿論であるが、今こそ大胆な発想、決断が必要と思うが、どういった基本姿勢で臨むのか。

町長

補助金の削減について詳細が示されていないが、例えば、義務教育の国庫負担金を削る、国保の持分を都道府県が負担するといったことは、恐らく町に

保状況によつては事業を先送りすることも必要になつてくると思う。

② 新年度において、新たな行財政改革推進計画の策定、行政組織機構の見直しに着手し、より一層、行政のスリム化に取り組んでいきたい。

課題が多いゴミ問題の解決策は

問

① 財政的効果、減量効果の見込みは。

② 問題点とその改善策。

・ゴミ袋の強度の改善と10リットル袋の必要性。
・不法投棄対策としての監視員制度の創設。



さけて通れないゴミの減量化、資源化

町長

① 10

10リットルのゴミ袋は早月、11月の家庭系ゴミの排出量は、前年度同期と比較すると約50%の減量になっている。有料化直前の8月と9月は、逆に前年同期の76%増となっている。

ゴミ処理経費の負担額については、帯広市・音更町が同時期に有料化に踏み切っており、処理経費が十勝環境複合事務組合を構成する市町村の最終的なゴミ排出量に応じて算出されることから、現段階では報告できない。

ゴミ袋の売払いの手数料は、3,500万円程度になるものと考えている。

② ゴミ袋の強度について、根本的な改善を行うべく指示しているところである。できれば、買った袋を強度のある袋に引き取ってもらう方向で進めていきたい。

③ 交付金が増えれば効果が上がるかもしれないが、複合事務組合を構成する市町村の交付金制度の中にも若干差異があり、構成市町村それぞれ事情の中で、ルールづくりができるかどうか検討していきたい。

④ ボランティアや公区などの公共的な福祉施策の中で対応していきたいと考えている。

・不燃ゴミの収集量減による、収集回数の隔週への見直し。

③ 資源回収実銭交付金は、音更町はkg当たり5円、帯広市は4・2円だが、本町は4円である。増額の考えは。

④ 十勝環境複合事務組合に加入している7市町村の中で、幼児、高齢障害者が使用する紙オムツの無料化、あるいは減免措置の施策を講じていないのは本町のみである。町長の考えは。

② ゴミ袋の強度について、根本的な改善を行うべく指示しているところである。できれば、買った袋を強度のある袋に引き取ってもらう方向で進めていきたい。

無料化・減免が絶対ダメということではないが、まずは、今、スタートした段階なので、十分状況を見た中で対応していきたい。